

「ささえ」

2016年1月発行 情報誌 第54号

発行NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

新 URL <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

【商品名】自動排泄処理装置
尿吸引ロボ「ヒューマニー」



夜ぐっすり眠れるから
屋間頑張れる!



【発売元】大和ハウス工業(株)

【商品名】床ずれ防止用ハイブリッドマットレス
「アルファフラ ソラ」

SORA



新発売
ハイブリッド型
車いす用クッション

【商品名】
アルファフラ
ソラ クッション



【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい・・・」

特報!

いま、ガンダムが動く！ ロボフューチャーのアイデアが表彰される。

NPO 福祉用具ネット 理事 坂田 栄二

実物大ガンダムを動かそうという計画が、2014年7月から始まっています。

その計画に、NPO会員の(株)ロボフューチャー社長 木原由光さんがチャレンジし、そのアイデアが採択されました。画期的なことです。

ガンダムは、世界中の、子どもから大人まで多くの男性を虜にして、心の中のヒーローとなっています。そのファンが追い求めたプラモデルは、約5億個、ビデオでは約2,000万本が購入され、1つの大きな産業となるまで成長しています。



ガンダム放映 30周年にあたる 2009年、東京・お台場のDiver City(ガンダムフロント東京)に登場したガンダムは、わずか 50 日間の展示で約 415 万人の来場があったほどの注目を集めました。しかし、高さ 18m の実物大の立像は、頭を左右に振ったり、煙を吐くことはでき

ませんが、動くことが全くできません。

この展示像を制作した(株)バンダイには、これまで多くのファンから「動かして欲しい。」「歩かせて!」という要望がたくさん届いていましたが、技術的に難しいことから、なかなかファンの要望に応えられませんでした。

そこで、2019年にガンダム生誕40周年を迎えることから「ガンダムを動かそう」という機運が高まり、一般社団法人ガンダム GLOBAL CHALLENGE (GGC と略します) が結成され、どうやれば動かすことができるかのアイデア募集が全世界に向けて発信されました。

それに果敢にチャレンジしたのがNPO福祉用具ネット会員の(株)ロボフューチャー 木原さんをリーダーとする「ALK (あるく)」チームです。NPO事務局では、練りに練った木原アイデアの応募をこれまで支援してきました。

多くの外部有識者による選定委員や GGC リーダーが、世界中から応募のあったアイデアを1つず

つ時間をかけて評価し、その結果 4 つのアイデアが認められ、採択されました。その中の1つが木原アイデアです。

10月26日に、その発表会が東京で行われ、木原さんは、表彰台に上がりました。4案の内、3案は、東京大学や台湾の大学などの大学研究者のもので、企業からは木原さんだけでした。



審査委員長の評価は、「木原アイデアは、外部に動力補助機構を作って、何とかロボットを軽量化し動かそうというアイデア」と、発想のユニークさが認められ、木原さんは、晴れて GGC メンバーの仲間入りを果たしました。

現在、今回の4案をベースに、更に実現性を高める第2次の改良アイデア募集が行われています。今後、木原氏は改良アイデアの評価委員として、夢の実現に向けて腕を振るうこととなります。

完成目標は2019年7月で、その後2か月間一般公開される予定です。

木原アイデアは、多くの新機構や新素材からなります。そのためには、より高度の活用技術が求められます。皆さんも心から応援しましょう。

そして世界を挙げて「ガンダムを動かそう」という企画を是非成功させようではありませんか。もっと詳細な内容は、以下のアドレスに紹介されていますので、是非ご覧ください。

<http://gundam-challenge.com/guidelines/index.html>

排泄ケア用品展示コーナーでの相談を受けて

保健師・おむつフitterー1級 辻 奈美 (NPO 福祉用具ネット会員)

西日本国際福祉機器展が10月29日～31日の3日間にわたり、小倉の西日本国際展示場で開催されました。

私は、29日と31日の2日間、NPOブース内の排泄相談コーナーにて相談対応をさせて頂きました。



NPO排泄ケア用品展示コーナー

29日はコーナーで相談にいらっしゃるのを待っているだけでしたが、31日は、開場早々、NPOのブースを通る方々に積極的に声をかけました。

「排泄のことでお困りごとはありませんか？」

「おむつの当て方や使い方でお悩みはありますか？」

そうすると、声を掛けた方が次々に相談コーナーに寄ってこられるのです。

内容に応じて、実際におむつを机に広げてパッドとの組み合わせや、立体ギャザーの重要性などを説明し、おむつの当て方に関する相談の際には、ポディトルソーにおむつを当てて説明をしました。

すると、その様子を見ていた方が次の相談に並ぶという感じで、相談者が途切れることがありませんでした。

多くが専門職からの相談だったのですが、皆同じことを相談されるのです。

【相談内容】

・おむつからの尿もれがある。

【もれに対する対処】

- ・尿取りパッドの重ね使い(最低4枚以上、最高8枚の例も)
- ・フラットタイプのパッド使用(テープタイプ、パンツタイプいずれのときも必ず使用)

十数組の方に対応しましたが、毎回同じ相談内容で、もれに対するケアの工夫についても、パッドを何枚も重ねると同じケアだったので驚きました。相談の度に、おむつの構造と立体ギャザーの機能、

併用するパッドの選び方、おむつの当て方を何度も繰り返し説明していました。パッドの重ね使いやフラットパッドの使用がまだ現場で根強く残っているとの認識はありましたが、相談者全員から聞くとは思ってもよらず、排泄ケア、おむつケアの認識と実践の遅れを強く感じました。

NPOでは、もう何年も前から排泄ケアやおむつケアの重要性を説かれています。私がNPOの研修でおむつフitterー3級を受講したのは、もう8年前になります。今私も講師として呼んで頂く機会がたびたびありますが、8年前まではおむつの選び方や当て方など全く理解できていませんでした。まさに今回の相談者と同等かそれ以下だったと思います。

「あ、そうなんだ！そういうことなのか！」

という気づきのきっかけがあれば、それがもっと知りたいという関心に変わり、知識が増えケアが変わっていくはずです。

今回相談された専門職の方々も、私から声を掛けられたから相談された経緯ではありますが、今の現状を何とかしたいと思っていられることは間違いないと思います。ただ、知るきっかけや学ぶきっかけを見出してなかったのだと思います。

会員の皆さん方は、パッドの重ね使いやフラットの併用などされる方はいらっしゃらないでしょう。研修を受け、知識を増やし自身のスキルアップを図るほか、同僚の方にもその知識を広めていられることでしょうか。今、この立ち遅れている排泄ケアの現状を改善していくには、学びを得た1人1人が仲間を増やし、ケアを変えていく他はないと思います。

来年(いや、ささえが発行されているころは今年?)は、私もこれまで以上に仲間作りに力を入れて草の根活動のごとく排泄ケア、おむつケアを広めていこうと思っているところです。どうぞ会員の皆さん宜しくお願いします！



「キネステイクス®をもっと！もっと！広めたい！！」

NPO 福祉用具ネット理事 海尾 美年子

「キネステイクス®をもっと！もっと！広めたい！！」との私の思いを、NPO 福祉用具ネットにより支援していただいて4年が経ち、西日本国際福祉機器展での体験講座は4回目になりました。更に今年は、NPO 福祉用具ネットブースセミナーのプログラムで1時間のプレゼンテーションをすることができ、講師は鹿児島のキネステ友達の中森美恵子さん(鹿児島医療福祉専門学校専任教員)にお願いしました。鹿児島弁を交え、参加者と一緒に身体を動かしながらキネステイクスの概念を紹介しました。大抵のセミナーは座学スタイルですが、キネステイクスの研修は、日常の動きをゆっくり体験しながら自分の動きの感覚を感じる学習をしますので、参加者にとっては、ちょっと新鮮な時間だったかもしれません。

キネステイクスには動きを考える概念があります。それは、インタラクション、機能から見た解剖、人の動き、力、人の機能、環境の6つです。一つ概念は「動きの問題を解決に導く分析道具(ドラえものの道具みたいなもの)」とイメージしていただくとよいでしょう。これを学習することでさらに理解が深まり、困難な動作を考える手助けとなります。

西日本国際福祉機器展でキネステイクスの概念をより多くの人に知っていただけることは、私の至上の喜びです。いつも、会場費や、集客にあくせくしながら開催している私たちにとっては、とても夢のようなお話です。NPO 福祉用具ネットには毎年のことながら感謝、感謝です。本当にありがとうございます。

体験会での参加者の様子はいつも気になります。参加されたきっかけも様々です。特に職場での利用者(患者)さんの起居動作や移乗動作の際の介護負担を悩んでおられる方が多いようです。体験時間は2時間です。その殆どの時間は、自分の動き方やペアで介助しながらの動き方を通しての体験学習です。そうする中でほとんどの方が、現在、自分が行っている介助が、利用者(患者)さんを抱えたり持ち上げたりしていることに気づかれます。そして、持ち上げたりしないでできる方法があることを学習されるのです。また、お互いにペアになって体験することで、「介助する自分も大変だけど、されている利用者(患者)さんも、きつかったのだなあ〜」と気づかれます。それは、

自分のしている介護が相手にどのような影響を及ぼしているのかということの発見になります。また、いろいろな動きを体験することで、「自分の身体って思っている以上によく動くんだった!」、「わりと楽に介助できるのだな!」、「相手といい感じで動けたな!」など、人の動きに対しての新しい気づきを感じることが出来ます。この感覚が現在自分が行っている介助技術を考えるきっかけとなります。

私はこの気づきを、現場の介護技術で悩んでいる人に体験していただければと思います。

まだ歴史の浅いキネステイクスですが、私はもっと沢山の皆さんに伝え広めていきたいと思っています。

4年前に作業療法士の松村美幸さんと“福岡ひとにやさしい介助を考える会”を立ち上げ、時間の許す限りで、福岡県を中心に九州、四国方面でキネステイクスを学ぶコースを開催してきましたが、まだまだ知名度は低いです。キネステイクスが広まりにくいのは、受講後すぐに明日から現場で使える技術というものではないことです。それは、困難な介助動作を、その人の動きをみて、動きの問題を分析して考えていくからです。「考えていく」ということは、人の動きを観察し、考え、実行し、結果を評価し、再実行するという一連の作業を要します。当然時間もかかります。概念が役に立つこともあればそうでないこともあります。「最初は難しいかもしれませんが、あきらめずに考え続けると何かしらわかってくるようです。(私も現在進行形です)また、考え続けないと何も気づくことができないと思います。

まだ参加者は少ないですが、ご要望があれば可能な限り、どこでも、体験会、コースの開催に伺います。NPO 福祉用具ネット(出前講座)にお問い合わせをお願いします。平成28年は飯塚市にて初めて夜間のベーシックコース(4月~8月、全10回)を予定しています。ベーシックコースの次のステップのアドバンスコースやベーシックコースを受講された方対象の練習会も予定しています。キネステイクス、みなさんも一度体験されてみませんか。



第17回 西日本国際福祉機器展に行ってきました。

クローバー訪問介護ステーション 管理者 是松 和宏

平成27年10月29日から3日間にわたって開催された『西日本国際福祉機器展』に今年も参加させて頂きました。私は平成23年から参加させて頂いているのですが、様々なブースやセミナーで普段触れる事の出来ない機器や情報を知る事が出来るので今年は弊社ヘルパー3人と共に来場しました。

会場の外には福祉車両の販売が行われていて、会場に入る前から雰囲気が盛り上がっています。会場ですぐ目を引いたのが、エントランスでの階段昇降機の実演でした。実際にヘルパーが体験させて頂き階段を昇降したのですが不安な様子もなく振動なども感じられなかったと満足していました。らせん状でも使用可能との説明があり、家屋の階段の踊り場でも対応ができるそうです。

受付を済ませ、いざ会場の中へ足を踏み入れると自動車メーカー各社のブースが出迎えてくれました。様々な車種に福祉用のオプションが装着でき、ユーザビリティに優れた商品が多い印象を受けました。

次にNPO福祉用具ネットのブースへと歩を進めると山形先生のボードやシートに関するセミナーが行われており、ヘルパー全員で受講させて頂きました。今回初めて参加したヘルパーからは『貸与されているスライディングシートの使い方がより分かった、これからはもっと負担が掛からずに介助する事が出来そう。』との声が聞こえてきました。また、展示でもマインレットが動いている様子を初めて見る事ができ具体的なイメージを持つ事ができました。

次に龍宮(株)さんのブースを見学させて頂いたのですが、パシーマの製品を見て触る事ができ、その肌触りに感動しました。説明を受けると、肌触りはもちろん発汗時の吸水性など実際に試す事ができ子供の寝汗などの吸水に重宝するのではないかと。1歳半の息子に欲しいと思い購入を希望しましたがブースでの販売はできないとの事で後日購入したいと思いました。

本田技研のブースでは電動で歩行をアシストする機器の展示があり、実際に着用する事ができました。実は昨年も着用させて頂いたのですが、順番待ちの方が多くあまり体験する事ができなかったのが今年も再チャレンジです。機器を装着し歩行をするとアシストの力を感じ、少し楽に太も

もを上げる事ができました。

メーカーの方にお話を伺うと可動制限が無い利用者様のリハビリ等での使用を想定されているとの事でしたので、筋力が弱い方を想定した場合は少しアシストが弱いとの感想を伝えると、リモコンからの設定で強に変えて頂きました。強は足を動かす初期微動をセンサーが感知し適度なアシストを行ってくれ、とても歩きやすく感じました。このようなメーカーさんからの情報提供はすごくありがたいですね。

また、リハビリ用遊技機(パチンコ)の展示もあり、他県で行政指導があった通所介護施設の話をお伺いすることができました。新聞報道などではパチンコ等の遊技機とあったが、この施設では他にカジノのような作りで、実際に施設内だけで使える通貨を賭けて遊技している実態があり、施設全体として娯楽に特化した状態となっている事を指導したもので、暗にリハビリ用パチンコを名指したのではない事、リハビリとしてのパチンコを規制するものではないとの行政解釈が出ている事などを教えて頂きました。



今回の福祉機器展での参加で様々な企業・団体のたくさんのブースやセミナーを拝見し、色々な事を勉強させて頂きました。しかし、例年よりも来場者の方が少ない印象を受けました。福祉や介護の業界は他に先進国が無く手探りの状態で試行錯誤を繰り返しながら官民ががんばっているのが現状です。その為、昨日までの常識がいつ変わるのか分からない業界だと言えると思います。その為、このような情報発信の取り組みを絶やす事無く続けて行く事がその地域の福祉や介護に対する受容能力の維持には欠かす事が出来ない事だと強く感じました。

「第6回交流会」&「今年も大盛況の忘年会！」

NPO 福祉用具ネット 理事 井内 陽三

先日12月5日にNPO福祉用具ネットの第6回交流会「地域包括ケアシステムを見据えて、在宅高齢者を支える課題と工夫について」が行われました。高齢者の生活を地域で支える方々が参加され、現状とこれからについて意見交換されました。

初めにコーディネーターの吉村理事より、地域包括ケアシステムの概要やその背景。また、医療と介護の両方に関して、現状で予想されている問題点や現状の取り組みに関して、分かりやすく説明がありました。「地域包括ケアシステム」はマスコミで日々取り上げられる社会保障費の増加や介護職の不足だけでなく、背景には、私たち日本人が持っている死生観、生活の変化もあるのだと知りました。

サービス提供を行う立場から、6名の方たちの現状から意見が聞かれました。私も、その一人として話をさせていただいたのですが、多くの方の前で緊張し、上手く話せず持ち時間オーバーとなり反省しきりでした。しかし、今後の介護者減少、介護力を補う点においては、もっと積極的な福祉用具の活用が必要と思う旨は、伝えられたのではないかと思います。

多くの方の意見で、「他職種間の連携」がシステム運用の成否に関わる大きな課題になるとの認識が共有されたと思いました。しかし、なかなかうまくいかない現状もあることが、分かりました。そんな中でも連携方法の1例として福岡医師会方式の「在宅カルテ」の紹介がありました。今後、この方式のように、それぞれの地域に合った方法が提案されていくことが期待されているのだと思います。

これから少しずつシステム運用が始まり、様々な問題点や改善点が出てくるかもしれません。しかし、今回、現状を良くするためにはと、熱意を持って語ってくれた方々のような人が増えれば、何とか乗り切れていくのではないかと思います。自身も微力ながら、現場で頑張ろうと、力を与え



られた交流会でした。

今年も「NPO福祉用具忘年会 in 源じいの森」が開催されました。今回も、子供さんを含む43名の参加者で、大盛況でした。毎年参加される方、今年初参加の方、様々な顔ぶれで笑顔とおいしそうな料理であふれる会でした。

豊田理事長のあいさつで開会。なんと開始直前に乾杯の音頭を依頼され、戸惑いながらも、はぎれのいい石橋さんの発声。大人に交じって子供たちもジュースで乾杯。

恒例の事務局長の力作のフォトストーリーで、1年を振り返りました。参加者の皆さん、映像で自分の写真を探せましたか？

自己紹介に至っては40人！ オッと失礼、小さなゲストを含め43人。今までで最長ではなかったでしょうか？ でも、一人ずつ個性あふれる自己紹介。勉強になります。

余興では、小さなダンサー（会員さんの娘さんと息子さん）が一生懸命に歌に踊りを披露してくれ、みんなを楽しませてくれました。なんと夏から考えてくれていたとのこと。立派な会員の一人です！ そして、数年ぶりに拝見、「南京玉簾」。流れるような手さばきと技にみんな拍手喝采。縁起の良い出し物です。みんなの笑顔に誘われて、来年の福がやって来そうです。

引き続き、熱気冷めやらず2次会へと突入です。カラオケでとてもにぎやかに、仕事の話で真剣に、家族の話でほがらかにと、十数名のメンバーで、夜中の2時半まで。楽しすぎて時がたつのを忘れるほどでした。

今回、参加できなかった方、参加してみたい方。来年は是非一緒に楽しみましょう。きっと、新しい出会いがありますよ！



「事務局長のブログ」を覗いてみませんか。

社会福祉法人 グリーンコープ 朝比奈 聡 (NPO 福祉用具ネット 理事)

皆さんはNPO 福祉用具ネットのホームページにある「事務局長のブログ」を覗いたことはありますか？

是非、一度見てほしいと思います。

継続は力なりで大山事務局長が日々更新をしています。

このブログで、なにが素晴らしいのかを本日はご紹介いたします。

NPO 福祉用具ネットの活動をリアルタイムで見ることができます。

NPO 福祉用具ネットの活動、特に日々活動している大山事務局長や坂田副理事長が、外にでての活動もわかります。NPO 福祉用具ネットで開催している研修会や交流会の予定はもちろん、内容もしっかり掲載されています。詳細な内容は書ききれませんが、どのようなことを行ったのかは、わかるような内容になっています。

様々な商品情報が案内されています。

事務局で集められた情報が、様々な視点で検証した内容をわかりやすく発信しています。

また、カタログだけではわからない内容も案内されています。

会員からの様々な情報が載っています。

会員からの提供情報から事務局への訪問、差し入れまでいろんな情報が掲載されています。

極めつけは事務局の笑いネタ

事務局は大山事務局長と坂田副理事長しかいませんが、2人が一緒に事務所で仕事をする日はあまりありません。お互いが外に出る日も多いので。

その少ない時間の中での、いろんな話が掲載されています。基本は真面目なお話ですが、時々思わず吹き出すような、漫才を超越したネタ(?)もあります。

皆さんの書き込みをお待ちしています。

2014年9月5日からスタートし1年と3ヶ月継続してきたブログです。

なかなか発信するのみに、会員の皆様からの書き込みがありません。日々お忙しい皆さんですからこそ、なかなか事務局や研修会等にこれないのであれば、なおさら、この書き込みを使って、ご質問や近況報告などを書き込んでいただいて、いろんな情報発信基地として、また、憩の場として活用しませんか？

皆様の書き込みをお待ちしています。

ハンドルネーム(ペンネーム)で投稿されても構いません。よろしく願いいたします。



<http://npo-fukusiyounet.sblo.jp/>

事務局長のブログは開設してまだ1年3ヶ月というのに、更新した回数は650回以上！コメントのやりとりは400件以上。

試しに記事をコピーしてワードに貼り付けてみたら1100頁にもなったらしいですヨ。アクセス数は1日に平均200件以上、多い日は600件もあるらしいです。

カリスマブロガーになったりして？！

びっくりポンやあ！

事務局だより

〈27年10月から12月までの事務局のうごき〉

9月 前号のつづき

- 9月15日 事例相談
- 9月16日 企業コンサル業務 東京
- 9月24日 事例相談
- 9月26日 環境NPO遊友大学開校式出席
- 9月末 情報誌「ささえ53号」発送

10月

おむつフィッター開催準備

西日本国際福祉機器展準備・設営・撤収

- 10月7日から9日 東京国際福祉機器展
- 10月14日 ケアマネ研修
- 10月21日・22日 企業コンサル業務 東京
- 10月23日 RKBテレビ取材打合せ
第7回福祉用具研究会
- 10月26日 テレビ取材
- 10月27日 展示会準備
- 10月28日 設営
- 10月29日～31日 西日本国際福祉機器展

11月

- 11月1日・2日 展示会后片付け
- 11月3日 テレビ放映
- 11月6日 ニシキ様より寄附
- 11月9日 事例相談
- 11月10日 開発相談 北九州市
- 11月11日 事例相談
- 11月12日 事例相談
- 11月18日 第8回福祉用具研究会
- 11月19日 プロジェクトとの打ち合わせ
- 11月20日 開発相談 事務局
- 11月25・26日 企業コンサル業務 東京
- 11月30日 事例相談

12月

- 12月5日 第6回交流会・忘年会
 - 12月12日・13日 おむつフィッター研修会
 - 12月12日 おむつ検定
 - 12月14日 開発相談 福岡市
 - 12月16日 第9回福祉用具研究会
 - 12月17日 プロジェクト会議 福岡市
 - 12月20日 第36回産学官バリアフリー研究会にて講演
- 情報誌「ささえ54号」企画・発行準備

〈ご報告(10月から12月)〉

各種研修会・交流会のアンケート結果はホームページに掲載しています。

10月14日 排泄ケア研修会(飯塚市)

10月29日から31日 西日本国際福祉機器展 展示と15のテーマでのセミナー開催

10月31日(土) 西日本国際福祉機器展セミナー

【FJC協会との共催事業】 講師 大淵哲也先生
「姿勢が変われば暮らしが変わる」

午前の部 10時30分から2時間《座位と食事姿勢》
午後の部 13時30分から2時間《ギャッチアップと
エアマット上姿勢》

10月31日(土) キネステ体験講座2回開催

11月14日(土)交流会⑤ 福祉用具最新情報

12月5日(土)交流会⑥ 地域包括ケアシステムを見据えて。在宅高齢者をささえる課題と工夫について語ろう！

12月5日(土) 18時から忘年会

12月12日(土)・13日(日) おむつフィッター3級の研修会

12月12日(土)〈おむつ検定〉

〈今後の予定1月～3月〉

各企業様からの開発相談対応

27年度の事業のまとめ

28年度の事業計画作成

3月末決算

3月理事会開催予定

3月末、情報誌「ささえ55号」発行予定

事務局からのメッセージ

〈研修会を企画する立場から思うこと〉

平成27年度の研修会は、意見交換が気軽にできる場をつくりたいと考えて、『交流会』という名前の新しい形を取り入れて研修会の企画をしてみました。一方的な講習会スタイルではなく、実技も取り入れた体験型も行いました。体験型では、現場の困難事例をみんなで検討する機会も設けました。

講師は、今年度はNPOの仲間の皆様にボランティアをお願いをする形で引き受けていただきました。皆さん快諾していただき、参加費用も、とても安価で開催することができたのです。

交流会に参加していただいた皆様は、今回の企画をどのように感じていただけたのでしょうか？

事務局の立場から振り返ってみますと、これまで公表しているアンケート結果からも分かりますが、参加者の皆様からは大変好評だったと思います。

しかし、参加してくれた方は大体いつも決まった方が多く、新しく参加して下さる方が少ないのは少し残念な気がしています。今後の企画をどのようにしたら良いか、少し戸惑っています。今年のように数多く研修会等を開催することは実はとても大変です。それでも、地域の介護のレベルアップになればと考え、頑張って開催しましたが、今後の計画は今一度検討する必要があるようです。皆様からのご意見をいただきたいと思います。(事務局 大山)